

特別展

中国 宋・元・明時代の漆器

—和の漆器や香道具とともに

4月14日(火)～6月28日(日)

《孔雀堆朱円盆》中国 元時代・14世紀 (個人蔵)



本展覧会では、これまでほぼ紹介されたことのなかった中国宋・元・明時代の漆作品、54点をご紹介します。これらはいずれも、貴重かつ希少な類の作品です。本展を通じて、多くの方々に中国漆器への関心を持って頂けるようになれば幸いです。なお第2章では、館蔵品の中から和の漆器や香道具をご紹介します。



《龍鳳螺鈿長盆》中国 元時代・14世紀 (個人蔵)



《古今和歌集序》(部分) 藤原定実 平安時代・12世紀 国宝



《松竹梅文蒔絵十種香箱》江戸時代・18～19世紀

企画展

祈りと救いの美

—国宝 普賢菩薩騎象像との出会い

7月28日(火)～9月27日(日)

当館所蔵の仏教美術の名品を「経典と仏教伝来」「釈迦如来とその弟子」「極楽浄土と地獄」「法華経信仰と普賢菩薩」「密教」「神仏習合」の6つの章に構成し、仏教美術の流れを紹介すると同時に、東京都内で2点しかない国宝の仏像の一つ、「普賢菩薩騎象像」も展示いたします。



《普賢菩薩騎象像》平安時代・12世紀 国宝



左から《平家納経 観普賢経(模本)》(部分) 田中親美 33巻の内 大正～昭和初期・20世紀
《一字金輪像》鎌倉時代・13世紀 重要文化財 (9/1～27展示)
《山越阿弥陀図》冷泉為恭 文久3年(1863) 重要美術品



企画展

美しい瞬間

—美人画を中心に

10月3日(土)～12月20日(日)



《宮女奏楽図》鈴木其一 天保2年(1831)



《宮女図巻》「仇英」款 中国 明～清時代・17世紀

日本人にとって「美」は自然とともにあるといわれます。人々の心情や人生は、春から冬へと移ろいゆく自然に重ね合わされ、芸術や文学に表現されてきました。本展覧会では、大倉集古館所蔵の江戸時代から昭和にかけての美人画を主に展示し、画家たちが写し取った情趣あふれる美の世界をご紹介します。併せてインドや中国の美人画を展示し、様々な美の表現をお楽しみいただけます。



《小雨》伊東深水 昭和4年(1929)



《小鳥をきく》菊地華秋 昭和2年(1927)

企画展

正月の風物詩

—年越し・歳取りの芸能や美術

2027年1月1日(金・祝)～3月22日(月・祝)

かつて正月とは、旧暦の12月半ばから1月後半までの「年越し」の時間を意識する節目の時期を指しました。年神を迎え五穀豊穡を祈るとともに年神に歳をいただき靈魂の更新をして「歳を取る」時期でもありました。この時期は神と人が交歓し、共食する機会であり、様々な行事や芸能が生まれました。本展覧会では、年末年始に行われる厄除けや予祝の芸能、そして長寿祝いなどをテーマとした、能狂言の面や装束、そして絵画を展覧し、2027年のお正月をお祝いいたします。

《雑画帖》のうち「太神楽」 英一蝶 江戸時代・17世紀



《三番叟図》恋川春政 江戸時代・19世紀



《紅地紗綾形打板模様厚板》江戸時代・18世紀



《能面 翁》 江戸時代・18～19世紀